



同対審答申、日韓国交正常化から 半世紀、そして今

理事長 松井 珍男子

向暑の候、当財団をご支援くださる皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援・ご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。最近の日本の四季は少しおかしくなっているように感じる今日このごろです。4月末に夏日が来たり、5月に台風が2つもやってくるという具合です。体調管理を上手くやりながら「気候変動」に負けることなく過ごしていただきたいものです。

今年は敗戦後70年をはじめとして「人権」関係にとって幾つかの節目の年を迎えています。同対審答申の50年という年でもあり、オールロマンズ差別事件から65年の経過となります。朝田善之助元部落解放同盟中央執行委員長が亡くなられてからの「荆冠の忌」33回忌でありました。

敗戦後70年の日本国の歩みは、平和憲法を制定し、戦争を放棄し、軍備を持たずに平和国家を建設してきたのであります。そして法の下での平等の基本的な人権を守ること、国民主権の下での民主主義の徹底などでありました。しかしこの70年の歩みが根底から覆られそうなことが起こ

りつつあります。一政権により憲法が解釈で変えられようとしています。歴代政権が「集団的自衛権」は現憲法下では絶対に行使できないと厳守してきました。しかし現政権で初めて平和憲法9条の解釈改憲で、彼らの言う「普通の国」へと変質させようとしています。自衛隊の海外派兵、集団的自衛権の行使へと動き始めています。「普通の国」ではなく「理想の国」日本の歩みを続けていくべきではないでしょうか。戦後70年のこの年が、平和国家日本にとって最大の危機に向かって歩み始めているのではないのでしょうか。

同和对策審議会答申50年の年を迎えました。部落問題解決を国策として実行するよう求めての長い部落解放運動から、1965年（昭和40年）に同対審答申を闘い取ったのでした。この答申では「部落差別の本質」「市民的権利の保障」「教育の充実」など「解放理論」として確立してきた運動理論をまさに正しいものとして認めたものとなったのでした。この答申を武器に4年後には特別措置法が制定され、まさに全国津々浦々の部落に同和对

策事業が展開されるようになったのでした。この50年にわたる運動・行政・政治の取組が部落差別の解消に向けて大きく前進してきた半世紀となったのでした。

日韓国交正常化50周年という記念すべき年です。日韓にとって国交が回復して50年という節目の年です。しかし今もって日韓首脳会談が開かれぬという不正常的な状況が続いています。「過去の歴史認識」についての首脳同士の理解の違いによるようです。過去の不幸な歴史を真摯に反省し、この70年間は平和を国是としての歩みを続けてきました。こんな不正常的な日韓関係も一因しているのかもしれませんが、在日コリアンの皆さんに対して聞くに堪えない憎悪の発言・行動を繰り返している一部団体があります。こんなことは人権確立を標榜しているわが国では許されない行為であります。司法の場でもこれは許されないことだと判決も出されました。こんなことがまかり通る世の中にしてはならないし、そのためには法的規制をしていくことも必要だと思われまふ。ヘイトスピーチはコリアンの皆さんのみではなく部落民にも浴びせられていることにも留意していきたいものです。いかなる人権侵害、差別も許されるものではありません。

この間の政権の経済政策により国民の経済格差は益々拡大していると言われていふ。富めるものは益々富み、貧しいものはさらに増加しているのであります。

アベノミクスの効果を全国津々浦々に行き渡せるといふことを時の総理からこの間何十回も聞かされてきました。しか

し国民の実感は全く逆の思いのようです。実質経済はさらに悪化をしているという経済指標が出されております。国民生活は益々苦しくなっているのがあります。それが一番ひどく現れてきているのが「子どもの貧困」であります。2012年の子どもの貧困率は16.3パーセントで過去最悪となったと報道されています。これはオールジャパンの数値ですが、マイノリティーの部落にとってはもっとひどい状況だと思慮されます。貧困が連鎖し、教育保障もままならないままこの格差社会に放置されているのでしよう。子ども達の教育保障をなんとしても実現していきたいものです。

当財団初代理事長でもあった朝田善之助氏が1983年4月29日に他界されてから早や33年を経過したのであります。初代理事長のこの他界を悼み毎年「荊冠の忌」と銘うって関係者が相集って偉大な指導者の思い出を語る集いを開催してきました。この「荊冠の忌」の命名は上田正昭京都大学名誉教授に名づけていただいたのであります。当初は「荊冠忌」と名づけようとの提案があったが、「荊冠旗」と誤解されるかもしれないということから「荊冠の忌」として発足したのであります。毎年この日に財団関係者・各地区関係者・ご親族など多数の皆さんのご参加の中で今は亡き初代理事長を偲んで飲み・語り・学ぶ場としてきたのであります。しかし今年33回忌という節目にあたり、「朝田家」として主催し関係者の皆様に親族から御礼を申したいということ、地元の聞光寺で法要を営んだ

のち、京都ホテルオークラで近畿各地から参加された110名余で会食が行なわれたのであります。部落差別は水平社創立93年を迎える今日なお完全解決を果たされていませんが、今一度部落解放運動の歴史、とりわけ「解放理論」をしっかりと学び今を見据え将来を展望していくことが肝要でしょう。初代理事長への思いの尽きない一日となりました。

「同和奨学金返還訴訟問題」の判決が2015年4月16日に京都地方裁判所でなされました。被告とされた方たちの願いむなく、「全額返還」との判決でした。しかしこの裁判で異例とも言うべき、裁判長から「付言」なる言葉が発せられたのであります。それは「返還請求は市の判断の誤りを責任転嫁したと批判を受

けてもやむを得ず、借り受けた側に落ち度はない。」と明言されたのでした。実質的には被告とされている側の主張が正しいと判断されたわけであります。それであれば何故「全額返還」を命じるのかが分らなくなる結論でした。この裁判闘争を今後とも注視していきたいものです。

公益財団法人に移行して2年間が経過しました。この間、関係者の皆様のご支援・ご協力の中で、財団運営は順調に実行されてきました。懸案となっている「(仮称)朝田教育財団資料館(図書館)」建設については現在その基本構想策定の最終段階を迎えています。一日も早く実現できるように努力してまいり所存です。今後ともご支援・ご協力を頂きますよう伏してお願い申し上げます。

4月29日 京都ホテルオークラにて行われた朝田善之助三十三回忌偈ぶ会



奨学生の集い 2014-2 学習会

「奨学生の集い 2014-2 学習会」を2014年11月29日開催しました。

元財団奨学生で、京都市立中学校の英語科の教員として勤務されている小山 潤さんにお話をいただきました。その折のお話を掲載します。

先輩からのメッセージ

小 山 潤

小山 僕は6年間大学におりまして、皆さんと同じように奨学金を受けながら色々な職を経て今、中学の教員をしています。

今日は僕自身の学職歴をA4用紙、2枚に書きました。

皆さん方がこれから目指してやりたいこととかがあると思うので、レジュメを見てどんなことが知りたいのか、興味があるのか等聞いて頂いたら、それにお答えするという形で進めたいと思います。

因みに私自身は花園高校という私立の学校を卒業していますが、その1年生の1学期の時にオーストラリアに10ヶ月間留学させてもらって、向こうの高校で単位を取って2年生の11月に戻ってきて、留年することなく上に上がりました。さすがにそこから大学へ行くのは、国公立の大学を目指していたので、やはり10ヶ月のブランクは大きく、その10ヶ月間の埋め合わせのために、部活のサッカーもやめて、補習に追われたのです。3年間で結果を出すことができず、一浪して、神戸市外国語大学に入学することになりました。

そして、大学3年の前期までを終えて、夏休みの後期の9月からパキスタンの日本大使館に行きました。在学中なんですけれど、その大使館に2年間いて大学に6年間籍があったということです。2009年ですから5年前の3月に卒業したということです。かなり端折って喋っているのですが、何でこの人こんなことしたんやろ、何でパキスタンやねんとか、なぜ突然大学の時に、とか何でもかまいませんので、質問ありませんか。

奨学生 最終的に学校の先生になられたのはなぜですか。

小山 元々大学の2年生までは学校の先生になりたくないと思っていました。両親も叔父、叔母もお爺ちゃんも全部教師なんですね、家系が。家の中の話題は学校の話ばかりで、おもしろくない。その話でもちきりで、休みの土日もありどこかへ連れて行ってもらったことがない。もう十分やと教師の世界は嫌だと思って、海外留学したい、海外に出たいという思いがあったんです。

大学生の時に、高校生の留学支援ボランティアをしました。これから留学する

全国から集まってきている高校生たちの渡航前の事前オリエンテーション宿泊研修がありました。10人ぐらいの高校生の支援ボランティアに関わって、その経験をしてから、教師を志すようになりました。そこでは、高校生たちが2泊3日の研修の中で、本当は自分が留学したいわけではなくて親に言われたから参加したとか、あるいは自分の住んでいるコミュニティの中では、すごく出来るけれど、そういう人たちが集まってきたら自分はあまり出来ひんということに気付いたりとか、宿泊研修は2泊3日だけなんですけれど、そういう中で高校生が変わっていく姿を見たわけです。これでご飯食べていけたら幸せかなあというふうに変わったんです。蛙の子は蛙で、血は争えないというDNAがあったのかも分からないですけど、そこから2年生の時に教師になりたいと思いました。教職課程を取るのは大変だったんですけど…。今日参加の方は何年生ですか。1年生と4年生ですか。もうすぐ就職ですね。**奨学生** 大学院に行きます。その先はまだ決めてないです。

小山 大学院に行くんですか。まだ決めてないんですか。研究室に就くかも分からない。

奨学生 教師になりたいと思います。実際社会に出て会社員として働いてどうでしたか。

民間企業に勤めてたが、 再チャレンジを決断

小山 これは端的にいうと人生1回きり

なので、色々やりたいことはある、これは本音です。大使館に勤めて、初めてそこで社会に出てお金をもらいながら仕事をするということを体験しました。実際に身につけたスキルというのが社会に出たときにどれだけ給料としてもらえるのか、どれだけの仕事ができるんだろうという興味と自分を試してみたいという気持ちが強くありました。教師になるという思いはもともとあったので良い教師になるための一つの経験として、大使館に勤めたということがあります。自分としても将来教育に還元するにしても、たぶん意味があると思ったんで、やはり1回は外の世界に出たいということがあったんです。

そして帰ってきて3年生の後期であったのですが、そこから就職活動を始めて1年半で就職しました。

司会 経歴を見せてもらった民間企業に行かれてたんですね。この時は東京に行って、元々はこの民間企業の仕事を続けていこうという気持ちはなかったんですか。そこを少し聞きたいです。

小山 この職歴で期間を見ていただいたら分かるように、1年2ヶ月で辞めているんです。

その理由は、二つあって、一つはリーマンショックというのがあって、企業が人を採用するということをかなり減らしたんです。やはり会社業績がだいぶ厳しくなってきました。僕は日経就職ナビという就活サイトをその間売っていたのですが、同業でいったらリクルートのリクナビとか、毎日コミュニケーションの毎

ナビ。1番手がリクナビ、2番手が毎ナビ、うちが3番手になる。その下にエンジャパンとかがあります。その少ないパイを皆で奪い合う。東京では特にみんな営業をかけるわけです。でもうちは企業採用しません。あるいは、採用するにしてもそこにかかるコストは上から削りなさいと言われてたりで、稼働は増えるんですけども、売り上げはなかなか上がらないということがあって、2年間はボーナス無しと、全員一律10%給料カットでした。そういう会社の状況があったというのが一つです。

もう一つは、今まで企業を回って人事の人に会って、こういう人材を取りたい、自分の会社がこういうふうにならなっていくので、こういう人を入れたいんだけど、どうやったらそういう人材を確保できるのかというお話を伺って、こういう媒体出しましょうとか、こういう見せ方をしたら学生が来てくれますよと提案をすることが仕事だったんです。でも、僕は教師になりたいので、人を作りたいという思いが根底にあります。今の大学生は、安定志向が強く、地元志向でなかなか海外へ飛び出して行くとか、自分に役職と売り上げと報酬をくれるのだったら、どこへも行きますという学生がだいぶ減ってきています。そういう人材がどこに埋もれているんですかと、よく聞かれました。海外留学をしている学生を採用しませんかと、ポストンで開催するキャリアホーラムに出しませんかと、そういうセールスをかけていたんです。その時に、今どういう学生

がいるとか、どんな動きをその学生たちはしているのかという情報しか流せないということに、自分自身の中でこんなことをしたかったのかなという自分の気持ちと会社の現状の間で、ギャップが大きくなってきた。再試験を受けて自分の行きたい道を決断しようかなと思うようになってきたのが1年経つか経たないかぐらいの時期だったと思います。

司会 基本的には人材を育成するというのが小山さんのメインなので、どの場面で教師になったかという話、こんな会社に入ってこんなやりたいとか、そんな話を聞きたいです。うちの奨学生にも関わるので。

小山 実際は学校をまわる部隊と、企業をまわる部隊とは、別なんで僕らは学生と関わることは殆どなかったんです。唯一あるとしたら合同企業説明会に大阪ドームまで行って、そういう時に運営に携わるので、その時に学生とちょっと話をしたりとか、どういう仕事をしたいとか、どんな企業に行きたいかを聞いて、こういう企業があるよとか、こっちもセールスがかかっているのでブースに誘導するということもあるんですけど…。

そういうところぐらいしか関わりはなかった。どちらかといえば、学生と関わりたいというほうがありました。

神学校マドラッサが

人々の重要な教育の受け皿

司会 もう一つ、パキスタンに行ったりしたことは、かなりこの企業に入ってプラスになりましたか。ちょっと系統が違

います。

小山 全然違います。対極です。逆に自分のやってきたことに対して、上の人から、官の仕事のやり方をやっていたら全然ついていけないと最初言われたことがありました。全然そんなつもりではなかったんですけれど。

財団役員 パキスタンでは一時危なかったん違いますか。帰ってこられるかどうかという心配はありましたか。

小山 ありましたね。親が随分心配しました。パキスタン大地震の時もそうでしたし、モスク立てこもり事件もありました。あれは僕の住まいから半径500mのモスクにイスラム原理主義者が立てこもって、治安部隊との銃撃戦があってそこに彼らが籠城している状態でした。

パキスタンの教育機関というのは公立、私立、マドラッサという神学校があるのでですけど、極端に公立は少ないんです。ほとんど入れない。教育を受けさせたい、私立学校に行かせたいと思っても、お金のあるところしか行かせてもらえない。

三つ目の方法としては無料で神学校マドラッサに行かせる方法です。基本的にパキスタンの識字率は50%です。昔はインド帝国と一緒にカースト制度。自分はこういう土地に生まれて、家柄に生まれたら、そのもとで仕事をしていくというのがあったんですけど、これだけ情報化社会が進んでくると、その中から自分は十分な教育は受けられなかったけれども、子どもには教育を受けさせる為に都市部に出して、自分の道を歩んでほしい

という家族がたくさんいるわけです。そういう所はお金がない、子どもは家の労働のために畑を耕したりします。でも親は学校に行かせたいと思い、マドラッサに行かせるんです。そのマドラッサで教育を教えていたのが、イスラム原理主義者です。子どもたちに偏った教育をしていたのです。

それがある所から政府の方にたれ込みがあって、それを黙っている訳にはいかなんかということになって、治安部隊を突入させ、銃撃戦になったんです。闘ったのは、ほとんどが子どもたちです。モスクの中で。結局いくらせめてもモスクから人が出てこない中で銃撃戦があったんですけど、段々日を追うごとにライフラインが切られていくんです。籠城しているのであぶり出さなあかんということで、僕らが住んでいたのはモスクと同じ区画で、自分の家の電気が止まり、水が止まり、生活がままならない状態になっていったのです。そして、日に日に家の前の道路に有刺鉄線がはられて、さらに土塁が積まれ、鉄兜をかぶったパキスタンの軍人たちがうろろしはじめました。戦車が来はじめた頃からいよいよ戦闘の開始を予感したので避難するという事になったのです。

財団役員 帰ってこれないということを知っていたんですけど。

小山 強制帰国（避難）という状況になっても、残留邦人を先に帰すというのが大使館の仕事なんで、僕らは最後なんです。そのことは最初から聞いていたんです。

財団役員 ああいう事件を起こしたら現地の人々の反応は。

小山 地元の人はずぐ逃げます。僕はコックさんを雇っていたんですが、コックさんが周りは逃げてると、我々も逃げないと巻きこまれるといわれて、ああやはり危険なんだと思ったんです。

危険なのは何処でも危険です。因みにパキスタン、イスラム教国と聞くとどんなイメージですか。

奨学生 イメージですか、宗教、イスラム教が強いじゃないですか、だから主張が強くて、武力系も多いというイメージがあります。

奨学生 パキスタンはあまり分からないんですが、イスラム系で不安定な感じですよ。

緑豊かで、穏やかな

パキスタンの人々の暮らし

小山 そうなんです。イメージはよくないんです。僕もパキスタンに本当に行くのかと言われ、親にも最初は止めといた方がいいのと違うかといわれたんです。ただ日本より間違いなく危ないんですけども、実際行ってみると緑がすごく多いんです。首都イスラマバードはどっちかいうと荒野のようなアフガニスタンのイメージがあったんですけど、緑が多くて閑静で建物も美しいし、イメージとの違いがすごかったんです。時々、自爆テロとかありますけれど、普通に生活をしている分にはそこにたくさん人が住んでいるので問題はない。ましてや僕は大使館に勤めていたら危険情報が一番先に

入ってくるので、それさえ守っていれば全然問題はない。あとイスラムというものに関してもイメージはかなり悪かったですけれど、実際は週に5日間は礼拝し、1年に1回は断食（ラマダン）という月がある生活をしている宗教です。それをしっかり守っていくことによって、精神世界が安定して平穩に過ごせるというのがイスラムの元々の宗教観です。本当は穏やかで楽しい話が大好きですし、皆が抱いていたイメージと逆ですし、ものすごくポジティブであって、今まで聞いていたものは何だったんだろうと思いました。そこら辺を気づいたというのか、だから余計に情報だけで判断するのではなくて、見て、感じて、話すことが大切だと思いました。

パキスタンという国は、イスラム教で、イメージは悪いんですけど、良いところもたくさんあります。しかし、イスラム原理主義による過激な行動ばかり目立つので、国民は腹を立ててるわけですね、過激派に。自分たちは迷惑をかなりこうむっている。本当のところ自分たちのことをどう思っているのかと。

司会 今問題になっているイスラム国と原理主義者と違うのですよというのは、報道されるようになってきましたね。

もう一つは男女の差別、それがすごくイスラムの国では大きいのではないかなと。

小山 そうです。女性はブルカという全身を覆う衣服を身につけています。おへそは見せない、肌は見せないです。結局何で肌を見せないのか理解することは難

しいですね。

奨学生 宗教的にそういう説があるのですか。

小山 日本では考えられないことですが、男尊女卑の世界です。結婚したら男の人が女性を他の人にさらしたくない。勿論宗教的なものもあるのですが、もう少し俗っぽく言うと結局自分の所有物にするわけです。人の目に触れて何かあったりしないために、見せないようにする。それも田舎は完全にブルカ覆っているんです。都市部は女性の社会進出が増えてきて顔は出して、スカーフを巻いて肌を隠します。結婚式も新郎の名前と、新婦の父親の名前です。女性に人権はほとんどないです。

奨学生 今でもですか。

小山 今でもです。全くないということはないですけど、国際社会からもだいぶ指導が入っていますが、それも彼らの感覚とか歴史に根付いた彼らの文化の中では、かなり差別は続いています。

例えば女性がレイプされて、女性が裁判所に訴えると、その女性がレイプされたという現場を見た人を5人は連れてこないと逆に女性が裁かれる。その逆は全くないです。現実的にはあり得ない。無理なんです、立証することは。イスラム教徒はそうになっているんです。

イスラム教、人々の多様な考え

司会 イスラム教徒は世界の中でもかなり占めていて、多様な考えもあるようですね。

小山 そうですね。コーランの解釈の仕

方も結構色々あるんですね。例えば、たばこを吸ったら駄目とか、たばこも吸う、お酒も飲むイスラム教徒もいるんです。コーランの中には一切書かれていないと言っていました。アッラー（神）を忘れることはない。だからお酒も飲めるし、たばこも吸えるという解釈なのです。

コーランの中には、結婚するまで純潔でないといけないとある。僕もちゃんと読んでいないのですが、そう書かれていると。しかし、それはイスラム教徒においてであると。だから異教徒であれば別に問題はない、という都合の良い解釈をしていくわけです。

司会 もう一つは豚を食べてもいいのかなど。食べてもいい豚もあるんですね。調理の仕方に問題がある。豚を食べることに問題はなくて、その調理をしていく過程に問題があるのかどうかですか。

小山 豚は不浄の生き物なので、基本的に彼らにとってはゴキブリを食べるようなもので汚いもので嫌ですね。牛とか鶏とかは、ちゃんと宗教的に殺してもいい人が正しい殺し方でさばいたものならいい、それだと彼らは食べられる。

僕は通称「パキバラ」といわれている、ウイルス性腸炎にあたったことがあるのです。2週間ぐらい立てなかったんです。汚い話、上からも下からも止まらない状態で、もうどうしてもご飯が食べられない。うちのコックさん、パキスタン人のお爺ちゃんがお粥を三食作ってくれたんですね。それで、ずっとお粥を食べたのでだんだん腹の調子も良くなってきて、体調ももどってきたので「そろそ

ろ食事を元にもどしてほしい」と頼んだんです。そうしたらそのコックさんが喜んでくれて、その日の夕食に出てきたのが「トンカツ」だったんです。大量のトンカツやったんで、これは調子よくなってきた人にいきなり、車でいうニュートラルから5段ぐらいギアを上げてくるようなご飯を作ってくれたんです。彼は、豚を触るのは絶対に嫌なのですね。でも僕が喜ぶと思って、作ってくれたのがよく分かったので、全部食べたのですが、又翌日から調子が悪くなりました。そんな感覚です。

司会 色んな話をしていただいて、これから彼らに海外へ出ていくことについて話をして下さい。

子供たちに海外生活の経験をさせたい

小山 僕自身は今の仕事のライフワークとして考えているのは「1人でも多くの子どもを海外へ出す」ことなんですね。英語教育を通じて、自分がやってきた、見てきた生活の話をするんですけども、結論からいうとやっぱり「海外へ行くべきだ」と思うんです。若いうちに、早いうちに。語学留学ってあるじゃないですか、夏休みの間3週間程度の。あれはあんまり意味無いと思います、3週間では。それよりも本当の留学は、1年間とか2年間とか行くべきです。本当に現地の生活の文化に触れて、そこで学んで、多様な国の人たちと切磋琢磨していくの間にか成長していく。言葉も覚えていくという状況がベストだと思います。

語学を勉強するために海外に行くとい

うのはナンセンスだと思います。それではなくて、何か見つけて頂けたら良いと思うのですが、何か目的があって自分はこういうものを目指したい。その為に海外に留学したら何か面白いものが得られそうだという風に。言葉というのは勉強しにくいものじゃなくて、付いてくるものだと思います。僕がそうだったので、そういう形にしてもらえれば良いと思います。学べることもたくさんありますので、それは日本にいて学んだ方が良いのか、海外へ出て学ぶ方が良いのかその判断は、そのときになりますけれども、出来れば後者を選んだら世界が広がりますし、自分が日本にいてだけでは知ることが出来なかったものを感じられたりとか、それはたくさんあると思います。チャンスがあれば行ってほしいと思います。

司会 留学するという事で視野がどれくらい広がるかという話ですね。

奨学生 留学に対してはそんなに考えたことはないんですけども、視野が広がるというところから、海外へ行ってどういう感覚がつくのかというのが興味はあるのですが、思っているだけみたいな感じです。

小山 普通そうだと思うのです。それともう一つは、前の仕事をしていた時によく企業から話を聞いたんですけど、今、日本にいる学生にあんまり興味ないんです。ひと昔前、僕が就職活動をしていた時にベンチャー企業が隆盛を誇っていたので、ホリエモンが現れたり、自分に金と役職をつけてくれるんだったら年

功序列じゃなくてそういう所やったらどんどん行きたい、わりとベンチャーマインドの、とがった学生が多かったというのは人事の人たちの多くの話なんです。それが今、安定志向、地元志向でそういう学生はいないという話なんですよね。じゃあどこにいるのかとさっきもそういう話をしましたけれども、その時にポストンキャリアフォーラムや、ロサンゼルスキャリアフォーラムに出展される企業が増えました。なぜかという、まずはグローバル化の流れの中で動いている学生がほしい。あと目的意識をもって動いている学生がほしい。あと実際に動いて異文化に適用して自分なりに道を切り開こうとしている学生がほしい。こういうニーズがものすごくあって、だから日本で少ないパイを取りあっていくよりも動いている、目的意識を持って学んでいる学生を取りに行った方が自分たちにもメリットあるというのが、企業側の採用の動きとして、今ちょっと変わってきたところがあります。日本で取れないから海外で取ろうということなんです。

もう一つ先は、BRICs 4ヶ国というブラジル、ロシア、インド、中国とかそういう所で英語以外の言語を勉強している人を取りたいとか、あと日本人でなくていいとか。日本語も多少出来、日本語も勉強しているけれども母国語を話してこれからフランチャイズで海外展開していくのに使える人材。そういうニーズが変わってきている。多様化してきたという話を聞きます。

司会 就職活動であつという間に次のこ

とをやっているかはあったけれど、その辺の話を奨学生に話してくれませんか。

自分で確かめて判断すること

奨学生 すごく初歩的な話ですけど、奨学金をもらってお金がないことで留学とか行けなくて、学校で交換留学とかそういうのだったらお金いらないので応募しようと思ったら制限があって、その為に日本で語学の勉強をしないといけないので、英語を身につけるアドバイスをして下さい。

小山 僕もコツコツと勉強するのは苦手なのでアドバイスは難しいのですが、スピードラニングはどうですかとか言われますけれど、やったことないですし、とにかくTOEFLとかTOEICを何回も受けたら取れるようになってくるので、お金かかりますけれど挑戦するのもいいと思います。あとはリスニングとかコミュニケーションを取るというテストをやっていく。周りに話せる人がいれば外国人と話をして出会いがあればいいと思います。よく言われるのは外国人の恋人を作ると、そうすると格段に上手になるといいます。即効性のある勉強法はなかなかありません。まずはTOEFLやTOEICを頑張って勉強する力が大切だと思います。

奨学生 中学教師になったときに、色々なことを思って入ったと思うのですが、教師をやってみて生徒とかにこういう違いがあったりとか、自分の思ったことと違ったことはありましたか。

小山 いっぱいありました。自分の思っ

ていたよりも中学生が幼いと思いました。だから海外のこととか異文化とか話がやっぱり分からない。パキスタンから帰国してすぐに同じ大学の学生に、授業で1時間、経験してきたことを教授から喋れと言われて喋ったんですが、今は中学1年生にABCから教えているんですが、まだそういう話をしてもイメージがわからない。言葉って楽しいなあとか、ちょっとでもこんな時に使う表現だとか、こんなん使ったらこんな失敗があったとかを話すと喜んだりするんで、写真見せて、ああすごいなあと言うところから、高校、大学になって行こうかという位になったらいいかなあと、今、種をまいているところです。いつ咲くかわからないし、咲く頃には関わってないかもわからないし、まあそんなもんかなあ。

奨学生 卒業生とかで高校とか英語系に行った人がいますか。

小山 います。僕、京都市内の中学で4年目なんですけれど、今の高校1年生で、奇跡的に1人だけ3年間英語教えた子がいます。その子が英語系の学校に行きたいと言って、小山先生のおかげですと卒業式に手紙をもらって、それが一番の自信になってこれで良かったと思いました。

司会 中学校の先生をされているんですけども、奨学生にこれだけは伝えていきたいなあと言うことがあればお願いします。

小山 一つだけ。やはり人とたくさん会ってほしいですね。中学生もそうですけれど、皆、携帯を持っていますし、インターネットして、ラインであんなこと言われたとか、それでトラブルになって仲裁したりとかして、ややこしいです。いつのまにかラインでこう言われたとか、メールが返ってこないとか、実際会っていないのにそれがさもコミュニケーションになってしまって、現実には辛くなっているみたいなこといっぱいあるんですけど、会っていないのになんでそんなことになるのということが分からないので、自分自身の経験からそう思います。いっぱい色々な人に会って海外へ行って、すると自分の聞いている情報と違うことが山ほどあって、誰かが間に入って違う情報を入れているのがたくさんあるので、自分の足で動いて、目で見て、耳で聞いて、肌で触れて、ああ良かったと後で判断するのは正しいコミュニケーションだと思うので、それをいっぱいやってほしいと思います。

司会 そしたら例えばまたこういう所に留学したいとか、こういうことをやりたいとかをお手伝いして下さいね。

小山 勿論です。大使館で働くという僕の2年間、その中で出会った人もたくさんいますし、興味ある人はぜひ言って下さい。協力は惜しみません。

司会 今日は貴重なお話をありがとうございました。

奨学生の近況 2014年度 後期

HIV感染者に対する偏見・ 差別の解消のためには

S.U

つい最近、以前の職場の知り合いがHIVに感染し、カリニ肺炎を発症したという話が耳に入ってきた。そもそもは肺炎で入院となったのだが、40代という年齢にも関わらず回復する気配がなかったので、HIV抗体検査を実施したところ陽性であったらしい。知り合いの中からHIVの感染者が出たことに驚き、またHIV / AIDSについて学んできてはいるが、やはり他人事のように考えていた自分に気づかされたことに戸惑った。そこでHIV / AIDSが社会でどのようにとらえられているのかを考える。

そもそもAIDSとはこういった病気なのかを正確に知らない人は多い。また、HIVという言葉とAIDSという言葉を混同して使っている人がいる。AIDS (Acquired Immune Deficiency Syndrome 後天性免疫不全症候群) はHIV (Human Immunodeficiency virus ヒト免疫不全ウイルス) によって引き起こされる病気の名称である。ウイルスによる感染症である。その感染経路が非常に衝撃的に、また差別的に伝えられたことにより、人々のHIV感染者・AIDS患者に対する偏見は非常に激しいものとなった。

感染経路としては、「母子感染」「血液感染」「性行為感染」が主な3つである。このうち「血液感染」は「薬害エイズ問題」として大きく取り上げられ、HIV感

染者やAIDS患者の存在を社会に広めた。主に血友病患者に対する血液製剤の使用による感染であった。血友病は出血するとなかなか血が止まらない病気であるが、血液の中のある成分を抽出した血液製剤を注射すると、止血できるようになることから、患者たちにとっては朗報であった。

しかし、当時日本では加熱殺菌していない非加熱製剤を使用していたことから、製剤の中にHIVが混入していたことが明らかになった。その後、加熱製剤への切り替えを訴えたにもかかわらず、非加熱製剤を使い続けたために、HIV感染者が広がったという問題である。HIV感染者・AIDS患者に責任はないとして、国や製薬会社に対する批判が起こった。しかし一方で、「性行為感染」でHIVに感染した人に対しては、自己判断・自己責任であるという風潮も同時に起こった。しかも男性同性愛者間による性行為に焦点があてられ、ゲイの人々への偏見が以前にもまして強くなっていった。そのような人々を自己責任で病気になったということで周りの人々が排除してよいわけではない。感染したからといって、病気になったからといって、周りの人と同じ生活が送れなくなるようなことがあってはならないのである。

では、HIV感染者やAIDS患者に対する偏見や差別をなくしていくためにはどうすればよいのであろうか。それはHIVのこと、AIDSのことをよく知ることである。不安が煽り立てられて、さも簡単

に感染してしまうような誤解が偏見や差別につながる。「空気感染はしません」とか、「お風呂に一緒に入っても感染しません」だとか、「〇〇〇では感染しません」といくら説明しても、「どのように感染するのか」が正確に理解されない限り、感染する不安は消えないのではないだろうか。感染に対する知識を正しく身につけることで、感染への不安を解消できる。それが感染者や患者に対しての偏見や差別をなくす最も有効な手段である。そのためには医療従事者をはじめ、ソーシャルワーカーなどの支援者や家族会などの各種当事者団体の啓発活動は非常に重要である。他人事ではなく自分のこととして、HIV・AIDSのことを積極的に学ばなければいけないと考えさせられた。

(大学 公共政策学部

福祉社会学科 4年生)

学生生活について

K.K

2年生までを終えて、私はこれまで子どもについての知識、子どもとどのように向きあっていくかなどを学び、勉強してきました。実際インターンシップで現場に行ってみると、授業では考えてもいないことが起きたり、ひとつの出来事から連鎖反応が起こり、大変な事につながったりすることがあり、とても困る事がありました。しかし、その経験をしたことにより、実際どういうことをすればいいのか分かることができました。先生方の対応を見ていて、勉強することがで

きました。

12月から学校からの紹介で、保育所でのアルバイトをすることにしました。保育所に通うことで、子どもとの関わり方や保育士と保護者との関わり、子ども同士の喧嘩がおきたときの対応の仕方などを近くで見ることができ、実際に自分でも対応ができていくことにより、成長していることを実感しています。保育士になるために役立つ経験ができていると思うので、これからも頑張っ続けていきたいと思っています。

私は将来、保育所の所長先生になりたいです。所長先生になるのはとても大変なことだとは思いますが、所長先生になり、自分が描いている保育所にしたいし、子どもの事を考え、困っている家庭を支えていける保育所を作っていきたいからこそ、一生懸命頑張りたいと思います。その夢に向けて、3年生からは空いている時間を有効に使い、積極的にボランティアなどに参加していきたいと思っています。

先日地元の「学習ひろば」という活動に参加させていただき、子どもたちに読み聞かせをさせて頂くという、とても役に立つ経験をすることができました。このような活動や実際保育所に行き、子どもたちの様子を見学させて頂くなど、自分が成長するためにいろいろな事をしたいです。

最近、子どもの人権について学習しており男女差別、障害者差別、部落差別などいろいろな問題になっている差別があり、人権についても考えなければいけない。子どもの人権はほんとうにしっかりと守られているのか？自分の意見を言う

ことができないからいいと思われていないだろうか?など考えるべき事は沢山ある。

しっかりと子どもの人権について考えていかないと虐待がなくなることはないし、誘拐もなくならないと思います。考えるだけでは何も変えることはできませんが、そうやって人権について考えて、そのことを広めて、少しずつでも考える人が増えればいいと思います。

(大学 こども学部こども学科3年生)

障害者スポーツを考える

T.M

4月から3年生になり、自分が就きたい職業を明確に考えていかなければならない時期になってきました。私は、大学に入学した時は「体育教師になって自分が得意とする柔道を教えたい」と考えていました。勉強していくにつれ「自分は教師よりも幼稚園の子どもたちや小学生(低学年)の子どもたちに運動を教え運動嫌いの子どもを少なくしていきたい」と思うようになり、今は「どれだけの運動嫌いな子どもたちがいるのか、運動をしない子どもたちは運動をする子どもたちに比べどれほど運動機能が低下しているか」などの勉強・研究をしています。実際に、幼稚園などに行き運動遊びなどを教え今の子どもたちがどれほど運動機能が低下しているかなどを見ています。自分が思っている以上に運動が嫌いな子どもがたくさんいて正直びっくりしています。その中で「運動嫌いな子どもたちを無くしていきたい」と強く思うようになりました。

もう一つ、私は「障害者スポーツ指導員」という免許を取りたいと思い福祉や障害者スポーツについて勉強しています。実際にボランティア活動などにも積極的に参加して、今では障害者児童福祉サービスにも行き障害児と多く触れ合っています。

その中で、やはり障害を持った人や子どもたちが運動できる場所が極端に少ないということがわかりました。障害者の方々が使える体育館などが少なく、十分に運動ができないという問題がわかりました。他にも辛い現状がたくさんあります。障害者の人よりも健常者の人が優先されたり、障害児が公園で遊んでいけば偏見の目で見られたり、壊してもないのに「壊すから使わないでくれ」と言われたりしてました。表面的には、「人権」「差別はいけない」と言われていますが、現実では人権という言葉はどこにも存在していないように思えます。私はそんな現状がとても嫌いです。

ですから、私が得意とするスポーツで小さなことでも変えていきたいと思っています。障害者をもっと参加できるスポーツや運動遊び、「運動・スポーツは楽しい」と思っただけのようなスポーツを考えていき、将来健常者と障害者が一緒に楽しくできる環境やスポーツを考えていきたいと思っています。その為に、障害者の現状をよく知り、いろいろなボランティア活動に参加してたくさん勉強をしていきたいと考えています。

その為に、今自分ができること、やれることをしっかりと考え1日1日しっかりと学んでいこうと思います。

(大学 スポーツ学部3年生)

周りと比べること

A.S

最近よく考えることがあります。私は浪人していました。その為、自分の周りの友だちとは1学年間の差があります。だからようやく今年の3月で大学の1回生を終えたばかりです。周りの友だちに目を向けてみれば短大や専門学校に行った人たちは今年、就職します。一方、私は友だち作りや先輩との人間関係を作るのに必死でした。初めての授業や、テストはどのようなものだろうかとドキドキハラハラしていました。私はそんな右も左も分からない大学1回生でした。それにも関わらず友だちは、もう就職活動をして社会に出ようとしています。そう考えたときに、凄く自分が子どもで、友だちが大人に見えました。同い年の人たちに置いていかれて凄く距離感を感じて焦燥感もありました。まるで小学生1年生の時、6年生が大人に見え、中学、高校の1年生の時は3年生が大人に思えた時と同じようです。しかし実際に自分がその年齢、学年になってみると、思ったほど自分が大人に成長していません。いつも違う立場から見ると羨ましく、早く大人になりたいという憧れを持ちます。

だけど年齢だけ重ねて大人になっても意味がないような気がします。中身が伴って初めて、大人になったと胸を張って主張できると思います。周りをみて羨ましがるのはではなく、まずは自分の事をしっかりと出来るようにしなければいけないと考えます。自分は今、何をしたいのか、何をしなければいけないのかという目標を明確にしていくべきだと思います。

す。そのために周りの人たちに目を向けていくことが最も大事なのではないかと思います。

自分と相手は置かれている立場が違うのに、相手と同じ立場に居たい、並びたいと思うから焦燥感を生むのだと考えました。就職していく友だち、そして大学の先輩である友だちから色々なことを聞いて、それを活かしていこうと思います。たとえば、社会人になって初めて分かることや大学生のうちに身につけておいた方がいいこと、やっておくべきことなどです。それらのアドバイスを自分の今後の大学生活に取り入れていきたいです。私は小学校の先生になるという夢を持っています。だからそのために就職した友だちやひと学年上の友だちとくらべるのではなく今できる大学での授業、実習などに一生懸命取り組んで行きたいと思います。そして、勉強だけではなく、大学生のうちにたくさん遊び、様々な経験をしろという教訓を行動に移していきたいと思います。昔よく言われた周り比べるな、過去の自分と比べろ、という言葉の表面上の意味だけではなく、その奥の意味が少しわかった気がします。残りの大学生活を有意義に、意味のある過ごし方をしていきたいと思いました。

(大学 臨床心理学部

教育福祉心理学科2年生)

学習会で学び感じたこと —狭山事件の経緯から—

M.K

私は今年、何度か朝田教育財団の学習

会と懇親会に参加させていただきました。その中で多くの方の話を聞き、今まで被差別部落出身の方がどういった扱いを受けてきたかについて学校の授業や本などでぼんやりと知っていましたが、実際に差別を受けた経験談として入ってくる数々の話に、自分の中でかなりの衝撃を受けました。特に私が興味を持ったのは狭山の冤罪事件です。

狭山事件は1963年に当時24歳だった石川一雄さんが女子高生殺人事件の犯人として逮捕されたものです。しかし実際は冤罪で、当時他事件で警察が犯人を捕り逃すという失態があり、この事件ではどうしても犯人を捕まえねばならなかった警察が、被差別部落出身である石川さんを犯人にしたてあげたそうです。冤罪は未だ存在しており、警察の圧力による嘘の自供は度々問題となっていますが、石川さんの事件の経緯をみるとそれがどれほど悪質なものかわかります。また、ちょうど狭山事件についての映画も公開され見に行きました。映画は主に石川さんの現在の日常についてドキュメンタリー形式で追っているものですが、石川さんは普通に幸せそうな生活を送っている印象を受けました。もし私が同じ立場なら、こんな風に幸せそうな表情をしているだろうかと考えると、石川さんの人の良さが伝わってきました。映画では他にも雨の中で石川さんが無実を訴えているシーンがとても印象的で、まるで石川さんの罪が晴れる日は来ないように思えました。

この狭山事件を学習会や映画で詳しく知って私が思ったのは、どうして人々は「部落出身の石川さんが冤罪になった」

ことを問題とするのだろうか、ということですが。確かに石川さんは世間一般で言う被差別部落に住んでいたかもしれないですが、それ以前にこの地球に住むどんな人とも違わない、人の良いただの青年であったのではないのでしょうか。そんなただの青年が、ある日突然に警察の都合で罪をかぶせられたことが何よりも問題で、被差別部落出身であることを世間は どうして問題にするのか、また石川さんの奪還こそ部落解放の希望の光であるという考えをもつこと自体、石川さんを勝手に自分のエゴに落とし込んでいて石川さん自身のことを考えられてないのではないか、と疑問に思いました。

私は部落に対する差別はいつか必ずなくなると思っています。しかし同時に、それはまだまだ先のことだろうとも思っています。狭山事件が良い例ですが、日本ではその人がどんな人であるかを見る前に、被差別部落出身であることを問題にする人がいます。しかし、私は平成4年生まれの22歳ですが、私の友達には誰一人部落出身であることを気にする人はいません。私たちのような若い世代がこれからどんどん増えれば差別は自然となくなると思います。そして、今回は被差別部落出身であるかという問題を取り上げましたが、それだけではなく、女か男か、どこの国出身であるか、血液型が何か、といったことからではなく、中身で人を判断できるような国になって欲しいと思いました。

(大学 農学部 食料・環境経済学科4年生)

2015年4月29日

朝田善之助33回忌 法要 偲ぶ会

去る4月29日、京都市左京区の聞光寺において、当財団の初代理事長 朝田善之助33回忌の法要が行われ、京都ホテルオークラにおいて、朝田善之助33回忌偲ぶ会が行われました。

この33回忌法要と偲ぶ会はこれまで朝田善之助氏と関わってこられた多くの人たちに対して、心からのお礼と感謝の気持ちから、朝田家が中心となって行ないたいという思いから執り行なわれました。

特に、偲ぶ会においては、第1部の司会を朝田善之助氏の曾孫にあられる朝田愛美さんが務められました。偲ぶ会の開会にあたって朝田欣子さんに代わって朝田浩三さん（朝田善之助のお孫さん）がご挨拶をされました。その挨拶の中で、朝田浩三さんは「朝田善之助の人となり生き様を語りながら、故人の言いたかったこと、伝えたかったことを語り合っていたきたい…。朝田善之助の意志を次世代にどう伝えていくのか、どこに向かって行けばいいのかを、話し合っていたきたい」と語られました。

つづいて、在りし日の朝田善之助氏について、小山逸夫さん、堀岡礼子さん、竹口等さんよりお話がされました。

小山逸夫さんは朝田善之助氏について「部落解放運動の指導者としての委員長は、常に差別とは何かを追い求めてこられた人であった。」「戦後の昭和26年の

オール・ロマンス闘争で、差別糾弾闘争をその最高の闘争形態である差別行政反対闘争に発展させる理論的根拠を明らかにしました。解放運動にとってはじめて体系的な解放理論—部落差別の本質、差別の社会的存在意義、社会意識としての差別観念（三つの命題）—を生み出し、その後の解放運動を決定付けて発展させた偉大な指導であった。」と強調されました。つづいて、「教育者としての委員長」の姿を、「朝田善之助にとっては、生活のすべてが闘いであった。常に勉強せよ」といい続けられたとも語られていました。

堀岡礼子さんは、朝田善之助氏の日頃の姿を語られました。「朝田善之助の周りには、いつも多くの若者や活動家が集まり指導を受けていました。誰もいない時には、いつも1人で本を黙々と読んでおられた」、その姿を紹介されていました。その姿は「闘う姿であったなあ」と当時を振り返っておられました。

竹口等さんは、朝田善之助氏が朝田教育財団を設立した目的を語られました。それは「部落出身者に対する奨学事業、つまり若い人を育てるという思いが、根本にあった。」そして、「若い人たちを結集することが、第一であり、そして部落問題に対する啓発を行っていくこと」であると。さらに朝田善之助氏が朝田教育



偲ぶ会終了後の記念写真

財団をつくるにあたっては、「自分の私財と朝田家一族の私財でもって作る。若い人たちの育成や教育にあたっては、助成をあてにせず、自分たちの家族と自分たちの支援者でもって、この財団をつくり、運営することによって、有意義な人材を育てていくことを目的とした」と語られました。

この後、ご来賓の福山哲郎参議院議員よりのご挨拶のあと、会は第2部に入り、司会を笹原義廣財団事務局長が担当しました。

はじめに挨拶と献杯が、松井珍男子財団理事長より行なわれました。

その後歓談に移り、朝田善之助氏の若かりし頃の姿が、スクリーンに映し出されると、会場からは活躍されていた姿を懐かしむ声が上がっていました。

そして、歓談の最後には、朝田善之助氏の在りし日の姿が映像で流れ、部落問題について語られている声を聞き、その

姿が映し出されると、会場の隅々で、涙する声もありました。

偲ぶ会の閉会の挨拶を、朝田家を代表して朝田榮美子さまに代わって、朝田華美（朝田善之助氏のお孫さん）さまより行われました。

それは、「おじいちゃんが入院していた時、若い人たちが24時間体制で看病をしてくれていた……。曾孫（朝田家の）たちに伝えたいことは、こんな立派な人たちが、私たちの回りにいる。姿勢をただして真っすぐに生きること、そして、自分たちの生活だけではなく、回りの人たちを支えられる人になるという血が入っている（我々には）ということを感じてもらいたい。父、朝田勝三が願っていたように、若い人たちを育てて行きたい、ということをおもっています。みなさま、どうぞよろしくお祈りします。」という言葉で、朝田善之助33回忌偲ぶ会は、閉会いたしました。

「水平社宣言」世界記憶遺産登録に向けて

理事 竹口 等

去る5月29日午後1時30分より京都市下京いきいき市民活動センターにおいて、「『全国水平社創立宣言と関係資料』のユネスコ世界記憶遺産登録をめざす会」（以下「めざす会」）の役員会議が開催されました。今回、世界記憶遺産に申請するのは、1922年3月3日の全国水平社創立大会で採択された「全国水平社創立宣言」とその関係資料の計11点です。これら資料を所有し、柳原銀行記念資料館を運営する崇仁自治連合会（京都市）と、水平社博物館を運営する公益財団法人奈良人権文化財団（奈良県御所市）が6月3日に日本ユネスコ国内委員会に記憶遺産登録を申請しました。

ご存じのように「ユネスコ世界記憶遺産」は、ユネスコが主催する事業のひとつで、危機に瀕した書物や文書などの歴史的記憶遺産を保全し、広く公開することを目的にした事業で、フランス人権宣言、ベートーベン交響曲第9番直筆楽譜、『アンネの日記』など301件が登録されており、日本からも3件登録されています。

人間は尊敬すべきものだととして、過去の同情的な融和運動を拒否して部落民自らが誇りを持ち、自主的集团的解放運動に立ち上がることを主張した全国水平社創立宣言は、日本初の「人権宣言」として人権史上高く評価されてきました。またそれは、被差別マイノリティ自身が出した世界初の人権宣言でもあり、差別からの解放を希求する部落民を勇気づけただけでなく、国内外の被差別マイノリティの自覚と運動に勇気と刺激を与えた価値



ある資料として内外から評価されています。

左記申請2団体に加えて、部落解放同盟中央本部、一般社団法人部落解放・人権研究所、公益社団法人福岡県人権研究所、公益財団法人大阪人権博物館、反差別国際運動日本委員会が「めざす会」を設立し、2017年の世界記憶遺産登録をめざしています。29日の役員会では、申請者代理人に就任された元国連大学副学長・反差別国際運動副理事長・同日本委員会理事長の武者小路公秀氏をはじめ、川口正志奈良人権文化財団理事長、組坂繁之解放同盟中央本部執行委員長ら、各構成団体各代表らが、全国各地から15名参加し、これまでの経緯と申請内容、客観的情勢を協議し、今後の取り組みを一層強化していくことを確認しました。崇仁自治連合会からも私をはじめ3名の役員が参加しました。

日本ユネスコ国内委員会が今年9月に2件以内推薦物件を決定し、その後ユネスコの審査をパスした物件が2017年の夏頃に世界記憶遺産に登録されることになります。

当財団もこれらの運動に賛同し、7月3日開催の朝田善之助記念同和教育研修会をはじめ、ご協力を広く呼びかけていきたいと考えています。

公益財団法人 朝田教育財団 Asada Educational Foundation

606-8425 京都市左京区鹿ヶ谷西寺ノ前町 33 番地 1

Office Address 33-1 Nishiteranomae-cho, Shishigatani, Sakyo-ku, Kyoto 606-8425, Japan

Website URL <http://www.asada.or.jp>

E-mail Address office@asada.or.jp

Phone 075-751-1171

Fax 075-751-1789